

会		議		記		録	
会議の名称		環境市民厚生常任委員会		会議場所		全員協議会室	
				担当職員		上西	
日 時	令和8年1月14日（水曜日）			開 議	午前	10	時 00 分
				閉 議	午前	12	時 15 分
出席委員	◎土岐 ○木村 大西 富谷 大塚 大石 平本 西口						
理事者出席者	【こども未来部】大倉部長 [子育て支援課]加藤課長、高田子どもファースト推進係長 [こども家庭課]松本課長、平井母子事業担当課長 [保育課]原田課長 【環境先進都市推進部】山内部長 [資源循環推進課]西田課長、名倉副課長						
事務局	吉田事務局長、上西主査						
傍聴者		市民 1名		報道関係者 1名		議員0名	

会 議 の 概 要

1 開 議

2 行政報告

[理事者入室] こども未来部

（１）第２期亀岡市子どもの貧困対策推進プランの策定について

<こども未来部長>

（あいさつ）

<子育て支援課長>

（資料に基づき説明）

～ 10 : 13

[質疑]

<大石委員>

非常に大事な施策だが、こども未来部だけで遂行できる内容ではない。他部署との連携はどのようにしているのか。

<子育て支援課長>

副市長をリーダーとするプロジェクトチームを組織している。子ども、福祉、教育の３部局を中心に全庁的な連携・情報共有を行っている。

<平本委員>

貧困には経済的な面だけではなく、体験の貧困など多様な側面があるが、その点についてはどのように考えているのか。

<子育て支援課長>

生まれ育った環境により体験ができないなど幅広い課題も認識している。85の事業には各部局の多様な取組が含まれており、議員指摘の視点を確実に抑えていきながら、一体となって施策展開をしていきたい。

<大塚委員>

第2期亀岡市子どもの貧困対策推進プランに該当する児童数は本市でどのくらいいるか把握しているか。

<子育て支援課長>

こどもの生活実態調査を令和6年度末に実施し、その中で、生活困窮の傾向が非常に強いと位置づけられた回答が全体の12.3パーセント、そこまではいかないが生活困窮に準ずると位置づけられた方が14.4パーセントであり、25パーセントを上回ると見込んでおり、約4人に1人程度が貧困に該当するかと分析している。

<大塚委員>

目標指標の中で、こどもの意見表明支援など第1期の数値が極めて低い項目を第2期で100パーセントに引き上げるとしている。具体的にどのように取り組むのか。

<こども家庭課長>

これまでは子どもの意見を直接聞く指標やチェック体制が十分ではなかった面がある。今後は、学校現場など様々な場面で子どもが意見を言える状態を担保し、それが適切に行われているかを確認していく。

<大西委員>

今後、事業の概要や関係する部署などが分かるものがあれば、事業展開を把握する上で分かりやすいと思うが、例えば一覧表など準備いただくことは可能なのか。

<子育て支援課長>

本日、行政報告を行った数日後から1か月ぐらいを目安に市民に対してパブリックコメントを実施予定である。パブリックコメントで、具体事業を含めた全てを計画案として示す予定をしている。プレスリリースとともにホームページや市民情報コーナー、保健センターで示す計画案で理解いただけるかと考えている。

<富谷委員>

85の事業の中で前回にはなかったような進化した事業はあるのか。

<子育て支援課長>

第1期プランで位置づけた各種事業は引き続き実施していきたいと思っている。それに加えて、社会情勢の変化を鑑みの中で今回新たな事業として、例えばヤングケアラーの事業や子どもの居場所の事業などを第2期プランには位置づけ、進めていきたいと考えている。

<木村副委員長>

保護者の視点に関連して、保育所における待機児童の現状と今後の対策は。

<保育課長>

国定義の4月1日時点での待機児童数を示しており、令和6年度の待機児童は10人である。今後は幼稚園及び保育所の認定こども園移行による低年齢

児の定員拡大や、保育士確保のための奨学金返還支援事業などを継続し、令和11年度には待機児童数ゼロを目標にしている。

[理事者退室] こども未来部

[理事者入室] 環境先進都市推進部

(1) めぐるステーションについて

<環境先進都市推進部長>

(あいさつ)

<資源循環推進課長>

(資料に基づき説明)

～10:58

[質疑]

<平本委員>

吉川町は常設での運用か。

<資源循環推進課長>

めぐるステーションの4つのスペースである、コミュニティスペース、おすそわけ（リユース）スペース、マルシェボックススペース、資源回収スペースについては、常設で運用する。

<大石委員>

各自治会にも紹介されたと思うが、他の自治体状況も含めて教えていただきたい。

<環境先進都市推進部長>

めぐるステーションを開設するまでに23自治会を回り、委員ご質問のとおり、実際に常設ができるのか、どのような形で運営するのかなど様々な議論を重ねたが、モデルがないため、具体的なイメージが掴みにくい状況があった。吉川町で開設ができ、スペースの確保が実現できたので、各自治体に対して今後、説明や意見交換を行う予定である。また、実際に見学いただき、地域での可能性を検討し広く発信していきたいと考える。

<富谷委員>

自主運営がベストだが、当初はサポートも必要ではないか。2月以降の体制はどのようなになるのか。

<資源循環推進課長>

2月中は、サポーター1名が常駐して交流を支援する。3月以降は現地の様子を見ながら、徐々に地域による自主運営へ切り替えていく予定である。

<平本委員>

管理や運営の負担についてはどう考えているのか。

<環境先進都市推進部長>

住民による自主運営を基本とするが、A I カメラやスマートロックなどの技術を活用し、セキュリティを担保しながら事務員の負担を軽減するモデルを目指している。

<大塚委員>

基本的には地元地域の方が中心に利用されるのか。それとも、地元地域外の例えば市外からでも開設中であれば利用できるのか。

<環境先進都市推進部長>

地域の方だけに限定することは基本的にはないと考えており、他地域でどのような取組がされているか見学したいなどに来ていただける方には入っていただければと思っている。ただし、それぞれ地域ごとでやるということもあり、できれば地域コミュニティを大切にしたいという思いもあるため、基本は地元の皆さんで利用いただければと考えている。地域コミュニティの確保を念頭におきながら、柔軟に対応していきたい。

<平本委員>

地域主体となった際の自治体未加入者の参加について懸念される点があるが本市としてどのように考えているのか。

<環境先進都市推進部長>

そのような懸念点があることは認識している。他市の事例として、参加意義を感じていなかった方が、顔の見える関係を築くことで再参加や自治会加入につながった事例がある。自治会加入されていない方々も地域コミュニティの構成員になれるような環境をつくり、地元の意見をもとに自治会と協議を進めていきたい。

<大塚委員>

今まで各町が行っている資源回収の部分とめぐるステーションに常設の資源回収スペースはどのようにすみ分けをしているのか。

<環境先進都市推進部長>

今までの制度も利用していただきながら、集団回収で市の補助金を受けていただければと思う。今まで点在して実施いただいていたことをここで集約するのも1つであり、めぐるステーションで得られた資金をコミュニティのほうへ活用していくのも1つであると考えている。他市の事例では、ここで得た資金をもって子どもの駄菓子屋を運営やリユース事業の展開をされている。既存の補助制度も利用して進めていただければと考えている。

<木村副委員長>

開設にかかる費用負担の内訳は。

<資源循環推進課長>

今年度の事業委託予算総額は約2,700万円のうち、めぐるステーションのスタートアップにかかる改修費などとして約600万円を割り当て執行している。

[理事者退室] 環境先進都市推進部

3 その他

<土岐委員長>

今年度の総括と次年度の委員会テーマについて協議を行う。今年度は「高齢福祉・介護施策の充実」をテーマに活動してきたが、その振り返りについて各委員の意見を求める。

<大西委員>

視察を通じて、高齢福祉の充実や買い物支援、プレミアム交通券事業などの課題を確認した。亀岡市の移動販売におけるガソリン代補助など、行政施策に反映できた点もあったと感じている。

<大石委員>

認知症ケア技法「ユマニチュード」施策や買い物支援の視察は非常に参考になった。一方で、介護福祉の取組については、今後の反省点としてさらなる充実が必要である。行橋市のプレミアム交通券は、失敗事例から学ぶこともあり、交通施策については今後、本市においても充実させるべき課題であると考えている。

<富谷委員>

今年度のテーマは幅広かったが、視察先で多くの学びがあった。特に認知症施策の普及啓発は大きい規模で取り組む必要があるため、予算や研修が必要であると感じた。また、移動販売事業への燃料費助成などが施策に反映されたことは、委員会としても成果であったと評価している。

<大塚委員>

認知症への理解を深める先進的な取組を学んだが、都市規模や予算の違いから、亀岡市でどう進化させるかが課題である。移動支援に関しては、業者の減少や収益性の問題など、現実的な難しさも痛感した。行橋市の事例からは、手法を誤ると良い事業でも結果に結びつかないという「負の側面」を学ぶ良い機会となった。

<平本委員>

成功事例だけでなく、失敗事例からも学ぶことが重要であり、それが本市での政策実現につながっている。委員会で掲げたテーマが、移動販売支援などの形で市の事業に生かされている点は有意義である。次年度も、テーマに基づいた学びと視察をセットで行うべきである。

<西口委員>

介護現場の助成金が適切に職員へ行き渡っているかなど、今後も検討すべき案件が残っている。

<木村副委員長>

福岡市のユマニチュード事業など、亀岡版として実現したい施策もある。今後も高齢福祉と介護施策にしっかり取り組んでいきたい。

<土岐委員長>

貴重な感想をいただき感謝する。各委員の意見の詳細は資料のとおりであるのでお目通し願う。次に、来年度の環境市民厚生常任委員会への申し送り事項について確認を行う。意見はあるか。

<平本委員>

高齢者が増える中で、元気な方だけでなく、移動が困難な方や認知症の方への視点を持ち、高齢者福祉をさらに深掘りしていく必要がある。

<富谷委員>

次年度のテーマに関連して、ヤングケアラー支援を含む子ども施策についても深めていきたいと考えている。

<大石委員>

介護政策の充実や、子どもの健全育成、貧困支援の施策充実も今後の課題である。

<大塚委員>

次年度も継続して高齢者福祉を取り組みたい。特に、低価格で入所できる施設の在り方などの事例を調査したい。また、行政報告にあった子どもの貧困対策についても、委員会として支援、勉強していくべきである。

<大西委員>

環境先進都市を掲げる亀岡市として、ゴミ問題や資源循環などの環境分野も最終年度に向けてテーマとして取り上げたい。

<西口委員>

低価格な高齢者施設については再度調査を検討すべきである。また、子どもファースト宣言に関連し、実効性のある施策を検討することもテーマに入れてもよいのではないかと考える。

<土岐委員長>

各委員からいただいた貴重な意見を来年度の申し送り事項としたいと思うがよい。なお、文言の整理については正副委員長に一任願う。

(全員了)

<土岐委員長>

それでは次に、来年度の委員会テーマについて協議を行う。今年度のテーマは、「高齢福祉・介護施策の充実」であった。来年度の委員会テーマについて意見はあるか。

<大塚委員>

来年度のテーマとして「貧困」を大きく取り上げたい。これには、子どもの貧困だけでなく、国民年金の範囲内で生活せざるを得ない高齢者の貧困問題も含め、広い範囲での「貧困」を想定している。

<大石委員>

介護ロボットの導入や人材確保など、介護施策を一つのテーマとして考えてはどうか。

<富谷委員>

「貧困対策」というくくりであれば、今までの事業を深掘りできるのではない。

<平本委員>

テーマは大きくても良いが、「貧困」という言葉よりは、買い物弱者なども含めた「弱者支援」といった相対的なまとめ方が望ましいのではない。

<大西委員>

全世代の福祉を考えるという意味で「福祉充実」という言葉が適切ではないか。また、視点が異なるがゴミ問題などの環境分野についても個人的には取り上げたいが委員間の総合的な意見で検討するならば「福祉充実」をテーマにしてはどうかと考える。

<木村副委員長>

今年度は、視察先でユマニチュード事業を学び、来年度は学んだユマニチュード事業を亀岡市で実現に向けて委員会として動けないかと考えている。一年で何もかも網羅することは困難なため、もう一年かけて「高齢福祉施策の充実」を取り上げてはどうかと考える。

<土岐委員長>

各委員から「貧困」、「介護」、「弱者支援」、「全世代の福祉の充実」、「高齢福祉」などの意見が出た。これらを集約かつ絞り出し、来年度のテーマを決定したいが意見はあるか。

<冨谷委員>

認知症や高齢者、子どもなどすべてを総括して「福祉施策について」としてはどうか。

<平本委員>

「充実」という言葉を入れてはどうか。

<土岐委員長>

それでは、令和8年度の委員会テーマは「福祉施策の充実について」と決定する。次に、令和8年度他都市先進地行政視察について、来年度の活動テーマも勘案して候補地選定を検討いただきたいと思う。後日開催の特別議会で決まる新体制の下で、改めて決定していき、候補地などの具体的な検討を行いたいので、よろしくお願いします。視察先の案について、このあと事務局より送付される様式に入力のうえ、提出をお願いします。

(全員了)

<平本委員>

地域交通に関連して「ライドシェア」についても学ぶ必要があるのではないかと考えるが、公共交通の特別委員会との整合性について事務局に相談したい。

<事務局主査>

ライドシェア単体では産業建設常任委員会の所管となるが、福祉に絡む内容であれば当委員会での調査対象となり得る。

<土岐委員長>

足の確保という点では福祉も深く関わるため、今後検討していきたい。その他意見はあるか。

(意見なし)

<土岐委員長>

次回の月例は、2月9日(月)特別議会において委員会を開催する。正副委員長の互選午前10時から開催するのをお願いします。

○令和8年度委員会テーマ「福祉施策の充実について」

散会 ～ 12 : 15